



熊本県版

No. 246

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

## 訃報

# 梶原定義元会長、逝去

## 治安維持法犠牲者の発掘、顕彰に尽力



元治安維持法国賠同盟熊本県本部会長で現顧問の梶原定義氏は10月18日、入院中の熊本市内の病院で亡くなられました。96歳でした。

梶原氏は共産党事務所を定年で退職した後、国賠同盟の活動に参加、熊本県本部の役員を長く勤め、県本部会長も務めました。

梶原氏はその間、とくに熊本にゆかりのある治安維持法犠

## 運動の基本

- 一、 治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
- 三、 国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

牲者の消息を丹念に調査し、生存者が分かれば直接訪ねて話を聞くなど努力。また『特高月報』『思想月報』など警察資料などにも当たって名簿の調査を進め、2005年に『地下水、その噴き出ざるを願って―熊本の治安維持法犠牲者、その名簿と足跡―』を編集・発行し、234人の名簿と足跡を明らかにしました。

その後も発掘、調査をつづけ、2020年には新たに74人の名簿を追加し総数308人の『改訂・地下水、その噴き出ざるを願って―熊本の治安維持法犠牲者、その名簿と足跡―』を編集・発行しました。この時梶原氏は実に94歳、「まだまだ100歳まで頑張る」と意気軒昂でした。

しかし最近では施設と病院を行き来することが多くなり、8月くらいからは面会もかなわない状況がつづき、ついに10月18日、息を引き取りました。（4頁に関連記事あり）

## 3年ぶりにリアル参加で開催

### 県本部総会&記念講演会25人が参加

3年ぶりのリアル参加による県本部総会&記念講演会が10月10日、熊本市のパレア会議室で開催され25人が参加しました。

第一部の総会では、最初に中央本部の吉田万三会長と沖縄県本部の村山純会長からの連帯メッセージが読み上げて紹介されたあと、小田憲郎会長が今日の情勢の特徴と県同盟の活動および方針について報告しました。

報告では先の衆院選、参院選で衆参ともに改憲勢力が議席の3分の2以上を確保するという憲政史上かつてない危機的状況が生まれていることに加え、自民、公明、維新、国民など各党がロシアのウクライナ侵略を絶好の口実に敵基地攻撃能力の保有、軍事費2倍加、大軍拡、9条改悪を叫んでいることを厳しく批判しました。

同時に、国民の6割、7割が反対している安倍「国葬」を強行するとともに、反社会的カルト集団「統一協会」と現職大臣を含む200人近くの自民党国会議員が様々な形で接点

を持ち、広告塔として被害拡大に手を貸してきたことが明らかになり、支持率が急落していることを指摘し、この激動の時代、憲法9条を守り平和と民主主義、国民の暮らし、福祉を守り抜くために国賠同盟も「市民と立憲野党の共闘」の一翼を担える組織になるためにさらに会員拡大と国会請願署名を推し進めようと強調しました。

総会では、「200人の県同盟建設」という創立以来の目標を達成したことを共に喜び合うとともに、次の目標を2023年の県本部総会までに250人、2024年の全国大会までに300人にするという新しい目標を確認しました。

総会では、新年度の予算案、人事案も総会議案とともに承認されました。

第二部の「記念講演」ではいま全国で大好評を博して第2次上映運動が取り組まれている映画『わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯』の原作者・藤田廣登さんが映画『伊藤千代子』にかける思いや全国で展開されている上映運動で寄せられている感想など、裏話も含めて縦横に語り、熊本でもぜひ第2次上映運動にとりくみ、成功させてほしいと訴えました。

(講演の詳細は次号に掲載します)

## 新年度の県本部役員

顧問 猪飼 隆明 (大阪大学名誉教授)

同 板井 俊介 (弁護士)

同 松岡 徹 (元県会議員)

会長 小田 憲郎

副会長 遠山 直毅 (八代支部長)

事務局長 関根 隆

同次長 渡邊 靖弘

同次長 裨島 芥子

理事 佐藤 秀年 (国民救援会)

同 塩出 美子 (菊池地区)

同 林田 武士 (水俣地区)

同 森下 順子 (八代地区)

同 (人吉地区)

同 (天草地区)

※ 総会の時点では梶原定義元会長はご健在でしたが、1面計報の通りです。顧問の任を謹んで外させて頂いたいただきます。

※ 人吉、天草地区は理事が空欄ですが、今年度中に地元と相談し、理事の人選を目指します。

## 九州沖縄ブロック交流集会

## 3年ぶりに、復帰50年の沖縄で

例年秋に、九州沖縄各県持ち回りで開催してきた九州沖縄ブロック交流集会は、コロナ禍によりこの2年間開催が見送られてきましたが、第7波が下火になってきたこともあり、3年ぶりにリアル参加で開催されることになりました。

開催地は2019年も沖縄県でしたが、今年は復帰50年ということもあり再度沖縄県本部に担当してもらうことになりました。今回は那覇市での活動交流集会の翌日、名護市辺野古を訪問し、新基地建設に反対してたたかっている現地の人たちと交流しましたが、今回は同じく那覇市での交流の翌日、南部戦跡や平和の礎、平和祈念館などを調査、見学する予定です。

現地での参加費は9,000円。それと往復の航空運賃がかかります。(経費総額は今調査中です)

参加希望者は県本部事務局小田(090・5380・9451) 関根(090・1366・5004)まで。

## 予告

## 第2回先覚者顕彰ツアーについて

総会議案に盛り込まれた通り、2020年に引き続き第2回先覚者顕彰ツアーを計画します。

第1回は、熊本市を中心にした県央を周りました。永村徳次郎、新美卯一郎、国崎定洞、田添鉄二、中垣虎児郎、山口隆喜の顕彰碑、墓地を訪ね、先人に思いを巡らせました。

第1回は、宣伝が行き届かず、5名の参加でした。これだけの参加ではもったいない、私も参加したかったという声がたくさんありました。

今回は、県北を周りしたいと思います。大逆事件の松尾卯一太、飛松與次郎の墓地、顕彰碑、エスペラントの宮崎巖、公子夫妻の墓地、新興教育運動の田代官次、テル夫妻の墓地などを訪ねたいと思います。

時期は、来年の1月ごろを予定し、年内に準備をし、皆様にお知らせし十分な宣伝をしたいと考えています。

ご意見、ご要望がありましたら関根までご連絡ください。

## “梶原さんを偲んで” 思い出募集!

治安維持法国賠同盟熊本県本部は1979年、西里竜夫、福田正雄、田代官次、遠山新五郎、高光義明諸氏ら治安維持犠牲者が中心になって結成されました。

やがて犠牲者が亡くなるとともに運動は低迷しましたが、これではいけないと復活させたのが梶原定義、國宗直、井上栄次、豊原健次郎、川永露男、稗島芥子諸氏でした。

中でも梶原氏は永年会長を引き受け、熊本県犠牲者の発掘作業に専念し、晩年は病氣との闘いの中、同盟のことに渾身の力を発揮しました。一昨年94歳にして出版された『地下水―その噴き出するを願って』はその集大成です。本当に頭が下がります。私は同盟でのかかわりの中でしか思い出がありませんが、長い党歴の中多くの方が忘れられない思い出が御有りのことと思います。

次号は梶原さんを偲んで皆さんの投稿を掲載したいと思います。11月15日を締め切り日にします。短くても長くてもかまいません。ちょっとしたエピソードや思い出話をお寄せください。記事は返信用の封筒に入れていただくか、熊本市東区長嶺南4・7・122 関根 隆宛で郵送ください。